

9月7日、JR札幌駅から大通までの札幌地下歩行空間で手づくり商品を販売する「hand to heart」が開かれ、ワークショップようてい製造部も参加しました。

これに先がけて8月24日に、利用者5人とイベント会場の下見を兼ねて販売委託先札幌駅西口「いこ〜る」への納品研修を行いました。利用者からは「普段見られない外で売っている様子が見られ、それが自分の作業を振り返るのに参考になった」「自分がつくったものより良いものがたくさんあり、良いものは売れるという発見があった」と製作意欲を増したようです。

イベント当日は、外国の方が興味を持ってたくさん買っていただき、くるみボタンの髪ゴム、がまぐちバッグ、ばね口ポーチが特に売れました。合計2万円ほどの売り上げで目標に届きませんでした。この日は晴天で地下歩行空間を歩く人が少なめだったとか。「チカホ」販売ベテランの方からたくさんアドバイス*4をいただき今後の参考になりました。これからも製作と販売に力を入れていきます。



精神科医 土田正一郎の

診察室で
考えて
いること(仮)



その41
割合

自信を持って言うが、私の話の95%はあえて聞かなくてもいい内容である。残りの3%は判定不能で、さらに聴く価値がありそうなのは、2%位であろうか。1時間喋り続けたとして、1分12秒である。

問題はその2%がいつ出てくるかわからないことである。それは私わからない大自然の神秘である。

さらに神秘的なのは、聴く人の耳によって、聞く価値がある内容が異なることだが、個別には対応していない。 ともに顧問(自称)

編集後記

わっくわくまつりが23日に開催されます。地域と、そして障がい者との交流がこのイベントで進むことを目指しています。この日は秋分の日、これから夜が長くなってきます。冬支度の合い間にぜひ遊びに来ていただき、楽しく充実した一日をお過ごし下さい。(かわさき)

各事業報告~8月末現在

- ◆障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい
契約/移行2人、継続B22人 見学/5人 体験/0人
- ◆グループホームよろこび 利用者/21人(定員22人)
見学/0人、体験/0人
- ◆法人会員 正会員20人、賛助会員 団体2 個人89人
- ◆寄付物品 牛乳パック
- ◆今年度寄付金 のべ10人 370,000円

わっくわくまつり9月23日開催! ぜひお越しください!
次号はおまつり大特集です。お楽しみに!

通信 ともに

第52号



2017年9月19日発行

発行者/認定NPO法人ともに
住所 〒044-0053 虻田郡倶知安町北3条西2丁目
でんわ (0136) 55-5828
FAX (0136) 55-5829
Eメール info@npo-tomoni.com
公式ホームページ http://www.npo-tomoni.com
公式ブログ http://blog.canpan.info/npotomoni/

今月の二枚



真狩フラワーロード*1
ユリの花が連なる道

障がい者就労支援事業所
ワークショップようてい

じゃがいもの収穫が始まりました 発送受付中!

ワークショップようてい農業部が農薬を使わずに育てているじゃがいもの収穫が進んでいます。

今年は自然栽培への初挑戦ということで、苦労の連続でした。水はけを良くする高い畝をつくるため、春先に利用者は手作業でスコップを使い土を盛り上げました。雨が続き泥のような土と毎日格闘していたのです。利用者の一人は「初めてのことばかりだけど、教えあいながらがんばりました」とみんなで努力したことを思い出していました。

そのかいあって病気がついたものはほとんどなく、さやあかねの収穫量は昨年より増えました。

価格は昨年と同じ、ひと箱5kgが1,000円、10kgが1,800円、20kgは3,500円です。価格一覧表つき注文用紙をお送りしますので、ご注文にご利用ください。

なお、先月号でご紹介した「キタカムイ」は、収穫後売れ行き好調なためすでに在庫少なく箱売りができなくなりました。待っていてくださった方には本当に申し訳ありません。

自然栽培の努力の結晶、ワークショップようていのじゃがいも「さやあかね」を今年もよろしくお願ひします。商品に限りがありますので、お申し込みはお早めに!



講演会・研修会活動 職種を超えた支援を目指す～コラボ研修



お盆明けの8月16日、羊蹄山ろく自立支援協議会の就労支援部会と子ども発達支援部会の共同企画研修を倶知安町保健福祉会館でおこないました。

今回は「中学校で不登校を経験し、高校も中退したケース」を取り上げ、小中学校、高校、高校卒業後の3つのライフステージ（人生の節目となる段階）にグループ分けし、それぞれの段階でどう支援していくかを話し合いました。

編集者のかわさきは高校卒業後のグループに加わり、メンバーと討議しました。卒業後の支援ということで高校とどうつながるかが難しいところではありましたが、本人の自立と両親への支援に焦点を絞って話し合い、まとめていきました。難しいケースでしたが、心だん接することが少ない職種と話し合うことができ、良い刺激を受けることができました。

この研修は平成25年度から始まり今回で5回目です。今回は前回より多い40人が参加し、関心が高まっているように思います。途切れない支援を目指し、今後も活動していきます。



在宅ワークからの障がい者就労の可能性

近年、家にいながらパソコンなどを使用して仕事をする「在宅ワーク」が注目を集めています。上司とのコミュニケーションは、テレビ電話ソフトを使い、指示を受けて仕事をしていきます。

当法人にもある企業から在宅ワークについての話がありました。移動に車を使わなければならない通勤環境の北海道にとって、家でオフィスワーク並みの仕事ができるという利点があります。

働く形態が多様化しているいま、障がい特性に合った働き方をこれからも提案できればと思います。



K. s. c. Juntos 第2回ともにカップ開催予定 9月17日(日)

昨年初開催し好評だったソーシャルフットボールともにカップ*2を今年も開催いたします。

倶知安町内外から6チームがあつまり、総当たりで対戦し優勝を狙います。

結果は次回の通信ともにお伝えしますので、お楽しみに。当日の観戦応援もよろしくお願いいたします。



主催：認定NPO法人ともに
日時 9月17日(日)

後援：日本ソーシャルフットボール協会
場所 旧東陵中学校体育館

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい 好天に恵まれて～くっちゃん福祉まつり

倶知安町社会福祉協議会主催のくっちゃん福祉まつりが8月27日開催され、今年も倶知安たんぼぼの会と合同で出店しました。

開祭前にちょっとした雨が降ったもののその後は晴天に恵まれ、親子連れや高齢者がたくさん会場に詰めかけました。

製造部は今年「ボタンアクセサリー制作体験」をおこない、子どもたちを中心にプレスレットなどを楽しんで作っていました(写真上)。

農業部は農作物のほか、郊外で自分たちで採取した笹の葉を乾燥させてつくったクマザサ茶を、試飲用を用意して販売しました。(写真中央)。

調理部は、コミュニティカフェわくわくでも販売しているオートミールクッキーを用意し、60袋全部完売しました。

今年も「知ってる会」のスタンプラリー*3に協賛し、たくさんの方が参加しました(写真下)。

各部の売り上げは下の通りです。今年もたくさんの方に来ていただき、ありがとうございました。

製 造 部	9,950円
農 業 部	17,080円
調 理 部	9,000円
合 計	36,030円



グループホーム よろこび ちば職員の入院回顧録 その2 (最終回)

「88歳のばあさん」

「88歳のばあさんだもの・・・」と、口癖の同じ病室のおばあさん。

入院した小学生の女の子が、消灯過ぎても戻らない母親を恋しく思い泣き出した。必死に声を抑え、泣きじゃくりに変わった。

すると隣のベッドの「88歳のばあさん」が、いの一番に「もう少ししたらお母さん、戻ってくるから大丈夫だよ。」

と、先輩母親として子どもを慰め始めた。

同室の現役母親、私たち2人は完全に脱帽だ。

別の夜、トイレで困っている入院間もない女子学生に、「88歳のばあさん」は歩行器で近寄り「大丈夫かい？ 看護婦さん、今呼ぶからね」

自分の状況よりもそちらの方が心配だったようだ。コールを押していた。

でも私たちの前では「88歳のばあさんだもの」と、ひかえめである。



社のお役立ち通信 <http://otakiyama.com>